

愛知のいちご

1 全国のいちごの生産状況と愛知県の順位

2018年産の出荷量は8,990t、作付面積は265ha、2017年産の産出額は96億円でいずれも全国6位となっています。

2 「ゆめのか」の特徴と県内での栽培状況

「ゆめのか」は、①ジューシーで、すっきりした甘さがある。②果実が大きくて、形の揃いが良い。③果実が傷みにくく、流通にも適している。④明るい紅色で光沢がある。⑤病気に比較的強い。という特徴があります。

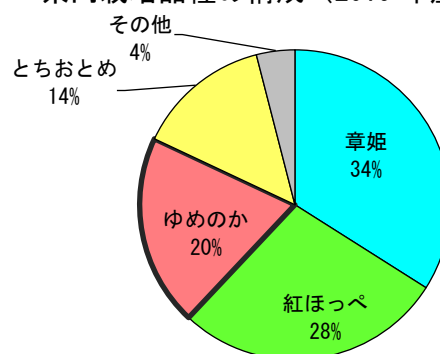
県内では、海部地域を中心に約23haで栽培されており、栽培品種の約20%を占めています（JAあいち経済連調べ）。

県内の「ゆめのか」栽培面積（2019年産計画）

地域	栽培面積 (ha)	割合 (%)
海部	16.7	73.6
西三河	1.1	4.8
東三河	4.4	19.4
その他	0.5	2.2
合計	22.7	100.0

（出典：JAあいち経済連
令和元年度秋冬作主要品目別出荷計画）

県内栽培品種の構成（2019年産計画）



（出典：JAあいち経済連
令和元年度秋冬作主要品目別出荷計画）

3 2019年産の県内いちごの生産状況

2019年のいちごの生産（10月から翌5月まで出荷）は、7月から8月の苗の生育期間に記録的な猛暑に襲われ、9月から10月の定植時期は長雨や日照不足により栽培管理に苦労しましたが、生産者によって適切な管理がされたため、生育は回復しました。その後は安定した天候が続いているため、現在は品質の良いものが出荷されています。

4 あまイチゴ組合の取組

あいち海部農業協同組合では、2016年から県育成品種である「ゆめのか」に栽培品種を統一するとともに、2017年から、旧市町村単位で独立していた4つの生産部会を「あまイチゴ組合」として統一しました。さらに同年、国の補助事業である「産地パワーアップ事業」を活用し、集出荷施設「いちごセンター」を整備しました。

これらの取組により、同一品種を安定的に供給できるようになり、その結果、取引先からの評価も向上し、2018年度の単位面積当たりの販売額は過去最高を記録しました。